



## ごあいさつ

院長 貝嶋光信

8月も残り少なくなり秋の気配さえ漂うこの頃です。今年の夏は記録的な猛暑で、我々の住む街にも10日続く真夏日（最高気温30℃以上）と、3日連続の熱帯夜（気温25℃以上）がありました。寝苦しい夜を味わいましたが、それもどこか懐かしささえある最近の涼しさですね。

閑話休題。昨年9月6日の胆振東部地震からもうすぐ1年を迎えます。全道がブラックアウトしたあの夜のことは記憶に焼き付いています。恵み野病院はコージェネレーションシステムというバックアップ電源があり、1週間は自前で電力を賄える能力を持っていますが、給食やリネンの供給が途絶える恐れがあり、大変心配したものでした。喉元過ぎればという言葉もありますが、災害はまたいつやってくるか分からないものです。日頃の備えが大切であると思います。各自、防災避難セットを揃えておきましょう。（2019/8/23記）



## 納涼盆踊り

8月9日(金)に北農会納涼盆踊りが開催され、多くの方々に参加頂きました。



## 血液透析センターのご紹介

センター長 渡部嘉彦

糖尿病や高血圧・動脈硬化、慢性糸球体腎炎、膠原病や遺伝性の腎疾患、尿路の結石や前立腺の疾患などなどさまざまな原因から腎臓の機能が低下した結果、老廃物を尿に排出できなくなりそれによっておこる慢性腎臓病の症状は「尿毒症」という言葉で表現されてきました。慢性腎臓病は初期には自覚症状に気がつかない方が多いのですが、腎臓の機能が限界に近づくと実にさまざまな症状や合併症を引き起こします。そのため、腎臓の働きの一部を代用する透析治療が必要になってきます。慢性腎不全で透析が必要な方は毎年増えていて、2017年末の時点では全国で約33万4500人の方が透析治療を受けています。この地域でも増加の傾向は例外ではなく地域の中核施設としての役割を担っています。

当院の血液透析センターの主たる業務内容は

1. 血液透析治療開始の判断と日常の外来透析の維持管理、合併症治療
2. 血液透析に必要な血管アクセス作成手術や再建手術
3. 合併症などで投薬や手術、処置などを要する患者さんの入院中の透析
4. その他

他科と連携して急性腎不全に対する緊急透析、家族性高コレステロール血症に対するLDL吸着、潰瘍性大腸炎などに対するG-CAP療法、薬物中毒に対する血液吸着、敗血症性ショックに対するエンドトキシン吸着、血漿交換などその他のさまざまな血液浄化療法も透析センターで行っています。

透析治療に関わるさまざまな分野の中で、この30数年で①貧血や骨やカルシウム・リンなどのミネラルに関する治療薬（薬剤）②ダイライザ-という血液をきれいにしてゆくための中空繊維の束でできた筒（膜・素材）③正確に水を引くスピードを調整したり、危険がないか常に透析の状態を監視・モニターする装置（工学・機械）などが合併症の克服の中で飛躍的な進歩を遂げてきました。透析治療は医師と看護師だけではなく、これらの医療機器を最適な状態に維持管理しながら安全に治療を進めてゆく臨床工学技士が重要な役割を担っています。生活や通院について利用できる社会資源の手続きなどを相談できるMSW（メンタルワーカー）、医療費や各種事務手続きに関わる医療ワーカー、食事についての栄養相談やアドバイスを担う管理栄養士など、病院がもつ実にさまざまな職種のスタッフがいてはじめて透析治療が機能しているのです。

### <担当医>

- ・渡部嘉彦：旭川医大 昭和61年卒、日本泌尿器科学会専門医・指導医、日本透析医学会専門医
- ・日高輝夫：鹿児島大 平成9年卒、日本腎臓学会認定指導医・腎臓内科専門医、日本救急医学会救急科専門医、日本内科学会総合内科専門医、日本透析医学会専門医
- ・橋本博：旭川医大大学院 昭和55年卒、日本泌尿器科学会専門医・指導医 副院長

透析装置



ダイライザ-



## 病院敷地内禁煙のお知らせ

平成20年7月1日より、当院の病院建物内および駐車場、通路を含む

敷地内での喫煙は禁止となっております。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



恵み野病院ホームページアドレス：<http://megumino.or.jp>